

南 建 維 第 806 号

平成 20 年 10 月 22 日

国土交通省道路局長 殿

南さつま市長 川野 信男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平素から、鹿児島県南さつま市の市民生活や産業経済の発展に欠かすことのできない幹線道路網の整備の推進にご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

標記、平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありました件につきまして、別添のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

鹿児島県 南さつま市

計画的及び戦略的な道路政策を重点的・効率的に実施するためには、中期的に達成すべきサービス水準とそのために必要となる優先事項を明確化することが必要であります。そのためには、道路・橋梁等の既存道路ストック及び今後の整備計画を総合的に管理するシステムの開発導入に係る支援が必須と考えられます。

効率的な道路整備が求められる中で、全国画一的な道路構造令の基準をそのまま適用するのではなく、1.5車線の道路整備など、その地域の実情に応じ、地域の特性を生かした整備が可能となる、道路構造令の弾力的、規定拡張運用を検討する必要があります。

地域にとっての道路行政は、市道・農道及び道路法以外の道路(里道)といった、管轄枠を越えた「道」という観点で進めなければならない状況にあり、特に地域住民にとっては、国県道・市道・農道・道路法以外の道路等の管轄区分は関係なく、生活に必要な道路という観点で政策評価されています。

本市においても、今後、各種道路に投下する費用は拡大しつつあるため、道路・農道事業及び道路法以外の道路(里道)にも交付金等の財源を充当し、整備と補修系事業も含めた一元的な道路施策実施を可能とする事業制度の創設が望まれます。

関連して、中期的道路政策の観点から、広域化する行政区域における地域を一体化する道路網の整備支援と生活関連道、特に緊急車両等が通行可能な防災面での道路整備及び避難路の確保対策への支援策の創設が望まれます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

鹿児島県 南さつま市

○現状

既存ストックの経年変化等への対応

これまで、社会資本が着実に整備されてきた結果として一定のストックが蓄積されてきた。

地域機能低下への対応

本市は、旧1市4町からなる合併市であり、農村地域・漁村地域・林業地域・都市地域等、地縁関係・集落構成・基幹産業・地理的条件等が多種多様な性質を持つ集落で構成されており、そのような集落の自発的な合意形成から、市道をはじめとする生活環境が保全されている。

多彩な観光資源の活用

本市には、薩摩半島南西部を循環する国道226号沿線に、他に類を見ない豊かな自然環境や、固有の伝統・文化、歴史的な資源、農林水産業や特産物など様々な資源をはじめとして、貴重な歴史・文化的遺産や設備の整った県立公園スポーツ施設などの数多くの素材がある。

○課題

今後、経年変化の影響を受けるストックが急速に増加していくという課題が顕在化しており、維持管理の重要性は益々高まっている。既存の社会資本ストックの中には、機能更新がなされなければ陳腐化、機能喪失が進み、社会の要請に応えられなくなることも危惧されている。また、近年、補修の予算措置ができずに管理レベルの低下が懸念されるなど、「創る」から「使い・育てる」という視点に転換すべき時期が到来し、長期的な維持管理を考慮し、改築系・管理系を一元化した補助制度等の創設・要求が必要である。

人口減少と高齢化が急速に進展する本市においては、集落の衰退や消滅も懸念されるなど、地域活力の低下を招き、社会基盤をどのようにしていくのか、投資の効率性等の観点と安全で住みやすい生活環境の確保、環境保全の管理等の観点を踏まえた検討及び対策が急務である。

本市は、平成17年11月7日に旧1市4町が合併して「南さつま市」となったこともあり、国道226号及び国道270号沿線を活用し、多様な観光資源を有機的に結ぶ道路及びPRするツールが乏しい状況である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

鹿児島県 南さつま市

南さつま市においては、過疎化や少子高齢化をはじめ、高度情報化や国際化、地方分権時代への対応など様々な課題が増大し、急速に変化する社会情勢の中で、市民主体の個性豊かで活力にあふれるまちづくりに努めていかなければなりません。

本市には、美しい自然や第1次産業を中心とする特産物、文化や伝統等の地域資源が数多くあり、個々の特性や魅力を融合し、次世代に引き継ぐべき豊かな地域を育むまちづくりを進めていかなければなりません。一方で、社会基盤の整備の遅れや、地域資源を活かし切れていないなどの現実がありますが、市民は自分たちの住む地域に愛着を持ち、地域の資源・歴史・文化に誇りを持っています。また、ハード面の充実だけではなく、住みやすいまち、やさしさ、ぬくもりに満ちた生活を望んでいます。そこで、地域の特性・資源を活かしながら市民との協働によるまちづくりを進めます。

・地域資源を活かした産業振興による活力あるまちづくり

観光業の振興

ここ数年の観光を取り巻く環境は、小グループ・個人旅行、個人の趣味・嗜好を優先した参加・体験・交流型の観光へと変わりつつあり、観光客の年齢層、集客対象地域においても、これまでとは大幅な変化が想定されることから、今後においては、観光客の多種多様なニーズに対応できる観光地づくりが求められています。

美しい自然や豊かな資源、貴重な歴史、文化的遺産や神話、四季折々を通じた豊富な農林水産物、設備の整ったスポーツ施設など、観光・交流ゾーンとして活用できる観光資源を有効的に活用しながら、観光客のニーズにあった観光ルートの開発など、本市の魅力を最大限に引き出し、これまで点であった観光構想を線から面へと広げていき、次世代につなげていける戦略性のある観光地づくりを推進し、地域の特性を活かした観光やイベントの開催など交流基盤の整備を進め、都市との交流を促進する観光地づくりを図るとともに、観光地間をつなぐ国道・県道等の道路網の整備促進等により、各観光拠点施設のネットワーク化を推し進めます。

・人と自然の共生する環境にやさしいまちづくり

住環境の充実(地域内を連携する交通網の整備)

本市の道路網は、国道 270 号及び 226 号と県道の主要地方道 3 路線を骨格に、一般県道 11 路線、市道 1,122 路線からなっています。

南九州西回り自動車道にアクセスする国道 270 号、薩摩半島を循環する国道 226 号、鹿児島市や空港、九州の主要都市を結ぶ南薩横断道路(主要地方道鹿児島加世田線)は、資源の開発や産業・観光の地域振興の重要な幹線道路として、他の県道は、隣接市町等を結ぶ広域生活圈や本市の地域間を結ぶ地域一体化を図るアクセス道路として重要な役割を果たしています。また、生活道路である市道は、通勤・通学、コミュニティ道路として日常生活に深い関わりを持っています。

今後は、南九州西回り自動車道にアクセスする国道 270 号の整備、地域振興の重要な幹線道路となる国道 226 号及び県道等の圏域内幹線道路の整備と併せ薩摩半島全域を見据えた広域連携を図るための幹線横断道路の計画・推進及び合併支援道路として地域一体化を図るアクセス*道路の連携的整備、農畜産物の広域的な生産流通に資する広域営農団地農道等の整備を促進する必要があります。

また、市民の生活道路として、市民の交流や連携を図り地域を一体化とするアクセス道路としての市道の整備を推進するなど、総合的な道路整備を進めるとともに、人や環境・自転車にやさしい安全で快適な道路空間の形成に配慮した道路環境の整備を図ることも必要です。さらに、スポーツ観光を推進し、スポーツ及び観光施設や公園施設等の一層の利活用を図るため、幹線道路からのアクセス道路の検討を進める必要があります。

一方、公共交通機関としてバス交通があり、加世田バスステーションが薩摩半島地域のバス交通の拠点施設として活用されるとともに、薩摩半島地域や鹿児島市への路線バス、空港バスの運行により、通勤・通学、航空機利用者の利便が図られていますが、車社会の定着により、利用者が減少し、運行回数や廃止等の問題も生じています。バス交通は、本市にある唯一の公共交通機関であり、関係機関と連携を密にし、市民の利便に沿った交通体系の維持・確保に努めるとともに、利用促進を図る必要があります。

また、公共交通機関のない地域に住む高齢者や子どもなど交通弱者のためのコミュニティバス等については、買物・病院への交通手段として需要が予想されることから、その充実や経路等の検討を図る必要があります。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

鹿児島県 南さつま市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
多彩な観光資源を有機的に結ぶ国道226号及び国道270号沿線道路の整備及び周辺施設の整備	南さつま海道「とるば226」整備構想 本市の南西部を循環する国道226号(以下、「R226」という。)沿線の雄大な景観を眺望する施設や関連する周辺施設の整備を行う。	整備実施することにより、本市の特色ある観光資源を有機的に結びつけるとともに、各施設間の回遊性を高め、本地域の活性化を期待する。	